

データサイエンス  
AIバブルは  
続くのか？

— あいさつ

須田礼仁

東京大学 大学院情報理工学系研究科 研究科長

— DSSの歩みと今後

久野遼平

東京大学 大学院情報理工学系研究科 講師

木脇太一

東京大学 大学院情報理工学系研究科 特任講師

— 招待講演

宮口航平

IBM 東京基礎研究所 研究員

南賢太郎

株式会社Preferred Networks リサーチャー

— 基調講演

山西健司

東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授

大西立顕

立教大学 大学院人工知能科学研究科 教授

— 企業講演

電通

コマツ

みずほ銀行

楽天カード株式会社

トヨタ自動車株式会社

GMO ペイメントゲートウェイ

第一回東京大学データサイエンティスト  
養成講座シンポジウム 成熟期に向けた実践的DS教育

事前登録制

2022.6.30

13:00 — 18:00

参加無料 — オンライン・オフライン同時開催  
<http://2022.symposium.dss.i.u-tokyo.ac.jp>



データサイエンス（Data Science、以下DS）とその担い手であるデータサイエンティストが今世紀で重要な立ち位置を占めると言われ始めて早10年が経過しました。またこの10年は、DSの根幹をなす技術の一つである人工知能（Artificial Intelligence、以下AI）が飛躍的な進歩を遂げた10年でもあり、巨大なインターネット企業などを舞台としたデータサイエンティストの活躍がAIブームとの相乗効果の中で華々しく報じられても来ました。ただ2022年の現在は世界的に見て、この様なDS・AIを取り巻く熱狂は落ち着きを見せつつある状況であり、まさに熱狂の10年を超えて新たな10年への転換期であると言えます。

熱狂の10年の折り返しにあたる2016年、実践的かつ高度なDS教育の世界的な希求の高まりを受け、東京大学大学院 情報理工学系研究科は東京大学データサイエンティスト養成講座（UTokyo DS School, 以下DSS）を創設しました。今年で7年目を迎えるDSSでは、基礎数理やアルゴリズム・コンピューティングに関する確かな技術の習得から、産学連携に基づいた実践的なビジネス課題解決能力の育成、そして最先端の研究活動まで、熱狂に浮かされる事無く地に足を付けたデータサイエンス教育の実現を目標に活動して来ました。これらDSSが掲げた活動理念は、DS・AIブームの転換期を迎えるにあたってより一層重要性を増して来ていると言えます。

本会合では「第一回 東京大学データサイエンティスト養成講座シンポジウム：成熟期に向けた実践的DS教育」と題しまして、製造、金融、広告など多種多様な業界から合計20社にも及ぶ協力企業との産学連携と大学院教育に関するDSSでの取り組みに加えて、DS・AIを取り巻く最新の世界情勢を産業・アカデミアの両面から幅広く紹介します。更に大学・大学院におけるDS教育と研究、産業界におけるDS活用とDS人材雇用、そしてDSにおける産学連携の現状での問題点と今後の展望を深く議論します。

参加無料 — オンライン・オフライン同時開催

2022.6.30 13:00-18:00

事前登録制

<http://2022.symposium.dss.i.u-tokyo.ac.jp>

イベント参加には事前登録が必要です。Webサイトから登録できます。